

5. 地域に開かれた魅力ある専門学校づくり

本学園は、複合化(複雑化・多様化)社会に対応すべく組織改革、カリキュラムの見直し、設置学科の改組、学習環境の改善等を実施し、平成26年度からは卒業生たち等の社会人の「スキルアップ」や「学び直し」の場としての教育環境を構築。

また、本学のもう一つの教育目標である『地域に開かれた専門学校』の活動として、病院・福祉等の「ボランティア」、「レクリエーション」等の活動において、地域の方々との触れ合いを通して高い評価をいただいている。地域ボランティア活動やインターンシップ、全国的コンテストへのエントリー等を通して「より地域に開かれた魅力ある専門学校づくり」を積極的に目指します。

6. 「卒業生を囲む会」卒業生に感謝！！

電子情報は就職活動に既に入っているため4月、福祉医療は5月に開催予定。卒業生が仕事の時間を割き、また有給休暇をつかって来校。在校生が各設置学科を代表する卒業生から「学校生活上のポイント」や「職種毎の社会の現状」、「就職活動のポイント」等の活きた指導を受け職業観、進路意識の高揚を図ることと、また、教職員も「本学の指導内容に対する現場からの助言」等を受け、その必要性に応じて学校生活、学生指導に反映。

私たちは、卒業生の貴重な情報を今後の学校生活・就職活動に活かすことで、大事な時間を割いて来校してくれた卒業生に対する御礼とさせていただきます。

7. 就職活動の面接指導：「己の人生を切り拓く就活！」

校長はじめ教頭、進路室長、事務長等を模擬面接官とした採用面接練習に臨むに当たり、事前に、次のことをしっかり自分のものにしておくこと。

- ①己を知れ：今までの人生で、また今後、身につけることができる自分の売りは何なのか、自分の就きたい職種につながるように纏める。
- ②相手を知れ：自分が就職を希望する会社、病院、施設等がどんな組織なのかをとことん調査・研究する。
- ③差異化を図る：私は他のエントリー者（求職者）と比較してここが違うんだ！

だから、私を採用しないと損だよ、と売り込める準備をしておく
上記の3つから自分のことばで「志望の動機」と「自己PR」を創り上げる。

そして、最後に「仕事を通して、自己実現を図る」と結ぶ。

④その上で、「これだけやったんだ」という自信を持って、失敗を恐れず、胸を張って、自らの可能性を信じて、元気よく「若さ」で勝負！！

“There is a will! There is a way!” 「ヤル気になれば道は開ける」

「成功する人」:

- ①「感謝の気持ち」をいつでも表現できる人
- ②誰に対しても明るく笑顔を忘れず、気持のよい元気な挨拶ができる人
- ③物事を肯定的に考える（プラス思考）人 ポジティブな人
- ④日々の生活が、将来を見据え、明確な目的意識を持って行動できる人
- ⑤豊かな感性を持ち、想像・創造することが上手な人
- ⑥社会が評価するスキル、アイデンティティを持った人
- ⑦人生のステージ毎に一人でも多くの「心の友」を持つことの出来る人
- ⑧相手の立場に立ったコミュニケーション能力を持った人

8. 海外研修・修学旅行

ICTの進展によるボーダーレスの国際化。世界市場という中で、「文化と価値観の違い」を学生が体験し、グローバルな志向性、先進的な専門知識や技術を身につけることが出来ます。

専門学校静岡電子情報カレッジはICTメッカアメリカ西海岸シリコンバレーで、アップル、グーグル、インテル等をはじめとする世界有数の企業やカリフォルニア大学等を訪問し最先端テクノロジーに見聞を広めることが出来ました。静岡福祉医療専門学校はハワイで異文化や伝統に触れ、国際的視点に立っての有意義な研修を積むことができ、貴重な体験をさせていただいた。必ずや今後のグローバル社会の中で大いに役立つ経験であり、日本の良さを強く感じ、友人との絆もより深まりよき思い出となるでしょう。

9. 新入生御殿場宿泊オリエンテーション

「なりたい自分になる」ために本学の学生としての心構えの徹底と一人でも多くの「心の友」をつくることを目的として実施。

本学の「全人教育」と「よりよい就職をするために」の具現化に向け、本学への入学目的を確認しあい、その達成を誓い合う。この成果を、目的達成のために学校生活を送り、しっかりと形にして、「これだけのことをやったんだ」という「自信」と「誇り」につなげる！

また、人生における人的財産となり、お互いに切磋琢磨できる「心の友」を、この専門学校生活の中で一人でも多くつくり、「友情を育み」大切にしてほしい。

「朋友は 我が喜びを 倍にし、悲しみを 半ばにする」

これからの君たちの日々の生活が、「感動」を求め、「充実感」、「達成感」ある生活であることを期待します。

10. 新入生保護者様 後援会入会にあたり

平成28年度新入生の保護者様、本学園後援会にご入会いただきありがとうございます。

本学後援会は、後援会会則にもありますように、「学生に、より充実した学生生活を送ってもらう」という目的のもと、本学の教育と研究の両面で、就職活動をはじめ学生各種活動補助、入学式・卒業式に際しての援助、教育・研究環境整備への補助、専門職業教育学会、産学連携・学校連携等に関する支援など、多大なご尽力をいただいております。

つきましては、学校教育と家庭教育の両輪で、学生たちを胸張って社会へ送り出すため、今後も本学園の教育内容をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

I was born. Keep alive. 「人は、生まれ、生かされている」、
「人は誰もが、無限の可能性を秘めている」ゆえに「日本人としてのアイデンティティを持ち、仕事を通して自己実現を図る」と職業教育を熱い心で教え、「人づくり60年」の生涯教育者であった本学園創設者中村忠雄学園長の教えを卒業後の社会生活の中でも活かし、「りっぱな日本人」になっていただきたい。

以上



◆『平成28年度の指導方針について』

教頭・教育部長 有賀 浩

建学の精神、校訓を根本とし、「明るく元気のよい挨拶を基調とした全人教育」、そして「勉強と仕事を通して自己実現を図る」こと。グローバル社会を生き抜く為に「日本人としての自信と誇りを持ち、確固たるアイデンティティを確立する」。これら本学における職業教育の土台となる教育理念を確と心に据え、夫々の学校・学科・コースで目標とする職業に必要なスキル・資格を積極的に修得し、各自が目指す職場、職種への就業を果たすことが、職業教育のための高等教育機関としての本学の役割だ。

修業年限3年間または2年間という限られた時間の中で「人材」となるためには、まず一日も早く職業観を養い、就職という目標を明確化すること。そのためには本学が最も力点を置く『産学連携教育プログラム』<産業界・福祉・医療・保育等、各分野との密接な連携による実践的・体験的な職業教育>により、企業人・現場スタッフ、時には卒業生からも直接指導を受け、関わり合うことで、キャリアイメージを明確化するとともに各自の就職目標達成に向けた学びに対するモチベーションを高める。そしてこの経験で得られた課題を持ち帰り、学内での学びで解決を目指す。

「創意進取の研鑽」を重ね、試行錯誤を通じ、クリエイティブな精神を大いに培う。プロフェッショナルとなった後も、それぞれの就職先で「現代社会の変化に対応」して自ら積極的に動き、課題を見つけ解決できる人材となること。校訓「技術は力なり 我は我が道を行く」ために必要な能力を、修学期間中に一つでも多く身に付けよう。

両専門学校共に文部科学大臣から認可されている「職業実践専門課程」としての責務も果たさなくてはならない。各界のプロフェッショナルや専門分野で豊富な経験を積んだ卒業生を中心に構成する教育課程編成委員会を基軸に、我々教員も多くのチャンネルを駆使して、斯界のニーズを的確に反映したカリキュラムの構築と教育の実践が最重要責務である。

また本学ならではの産学連携によるゼミナール活動、「ICT（情報通信技術）×福祉医療」によるコラボレイト教育、永年継続して地域から高く評価されているボランティア活動も一層充実させる。

専門学校での高度職業教育は「中核人材の育成」についても大きな期待が寄せられている。今年度も文部科学省委託事業による全国の専門学校・産業界・学識経験者とのコラボレーションによる教材開発とその普及に本学も参画を予定している。

ICT教育をスタートして30周年という節目の平成28年度、「キャリアイメージを常に持ちながら質を高めていけるプロフェッショナル」になるための着実な教育を実践し、その成果として優秀な人材を世の中に輩出する一年としたい。

*「職業実践専門課程」

専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを、「職業実践専門課程」として文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とするもの。平成26年度より新設された。

ICT情報システム学科長 早崎 賢治

学科再編成の関係で今年度のICT情報システム学科は2年生のみとなります。ICTはもはやインフラとして社会にかかせないものであり、ICT環境の高度化・複雑化・グローバル化により、クラウドやビッグデータ、スマートデバイスなど、先進技術を活用したシステムを構築できる人材が求められています。本学科では産業界とコラボレートすることで実践的なスキルを習得することを目指しています。自分たちの学んでいることが、社会にどのように役に立つのかを肌で感じることで、スキル習得へのモチベーションを高めることができます。自らの目標とする業界・職種を明確にし、1年次に身につけた技術・知識を武器に、夢の実現を目指して就職活動に自信をもって取り組んでください。

(ICT) 映像・音響デザイン学科長 鈴木 正章

本学科はICT基本技術・社会人基礎力を土台として、映像・音響分野の実践に即した授業内容で最先端の技術や知識を身につけ、関連分野の企業とタッグを組んで即戦力となる人材を育成することを目標とします。

この分野では、何より創造性＝クリエイティブな精神が求められます。そのためにも創り出したものを世の中にどんどん公開しましょう！世間から、時にはプロから評価を頂き、その結果を省みて、レベルアップを図る。まさにPDCAサイクルですが、これを修業期間中に一つでも多く経験しましょう。

誰しも最初からセンスが備わっているわけではありません。日本では古来より武道や芸術の世界で師弟関係を「守破離」という言葉で表してきました。始めは先人達の作品に触れ、模倣することから始めましょう。彼らがその中にどんな思いでどんな技術を注ぎ込んできたか、やがて理解できるでしょう。そこから独自の感性が磨かれるのです。

若きクリエイターの力を結集し、明日の日本をデザインしよう！！

ゲーム応用学科長 早崎 賢治

本学科では、ゲーム業界をはじめとした様々な業界でのシステム開発業務に幅広く対応できる人材を育成することを目標としています。ゲーム開発において重要なプログラミング技術の習得を中心に、企画・提案から設計・開発まで一連のスキルを身につけることで、ゲーム分野だけでなくシ

ステムエンジニアやプログラマなど幅広く情報通信技術分野に携わるプロフェッショナルを育成すること目指しています。C、Javaなどの基本的なプログラミング言語学習に加えて、Unity、Cocos2d-xなどオープンソースのゲーム開発プラットフォームを授業に取り入れ、豊富な実習を通して実践的かつ高度なソフトウェア開発技術を習得します。また各種コンテストにも積極的に挑戦して技術を磨いていきます。

ロボット創造学科長 有賀 浩

少子高齢社会、生産年齢人口の減少が進展する中、ロボット技術は、製造業の生産現場だけでなく、医療・介護現場、農業・建設・インフラの作業現場から一般家庭まで、幅広い分野で、人手不足の解消、過重な労働からの解放、生産性の向上などの社会課題を解決する可能性を有しています。このような状況を政府が「ロボットによる新たな産業革命」として打ち出し、国を挙げてロボット産業に取り組み始めています。

ロボット創造学科では、本学が30年間にわたり培ってきた「組込み技術」をロボット分野に拡大。ハードウェア技術（電気・電子、デジタル回路）、マイコンシステム開発（ハードウェア/ソフトウェア）、センサー技術、アクチュエーターと、多岐にわたる技術を、学内での豊富な実習に加え、産学連携教育プログラムを通じて確実に習得していきます。また、この分野でも欠かせない「ネットワーク」「セキュリティ技術」を身に付け、高い応用力のあるロボット設計・開発系スキルを持ち、時代のニーズに即応できるロボット設計・開発エンジニアとしての活躍を目指します。

総合福祉学科長 磯野 博

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

オープンキャンパスや入学選考、そしてステップアップレッスンを経てめでたく入学式を迎えられたこととお祝い申し上げます。改めて皆さんとの出会いに感謝しております。

さて、現代社会は、国内外にわれわれの生活を脅かしかねない数々の不安定かつ流動的な要素を抱え、混沌とした状況にあります。福祉・介護、保育・幼児教育などにおいても明るい展望に水を差しかねないような報道が日々続いております。皆さんも、この道を選ばれるまでには、色々とも悩みも心配もあったかと思えます…。

しかし、皆さんが選ばれた道は間違いありません！

この道は、人々から求められ、感謝され、そして進んでいけば必ず報われる「自らが社会から生かされている」ことを肌で感じられる道です。

また、本学のような専門学校を選ばれたことも懸命な選択でした。資格を取るだけ、学生生活を楽しく過ごすだけなら他の道もあったでしょう。本学は違います。挨拶を基調とした「全人教育」の下で、「心の友」とともに過ごす2年間、3年間は、皆さんを人間的にも成長させ、まさに